

❁ 医療職のための統計シリーズ

医療職のための学び直し—研究デザインから論文報告までの生物統計学の道標—  
第2回 量的研究におけるリサーチクエスチョンのたて方

ヨネクラ ユウキ  
米倉 佐貴\*

クリニカルクエスチョン・  
臨床上の疑問

I はじめに

「医療職のための学び直し—研究デザインから論文報告までの生物統計学の道標—」連載第2回の今回は量的研究におけるリサーチクエスチョン（研究疑問）や仮説のたて方を扱う。リサーチクエスチョン（Research Question：RQ）とは研究によって明らかにしたい問いである。リサーチクエスチョンは調査の方向性を決める重要なものであり、明確に設定する必要がある。本連載で今後扱う研究デザインや統計解析の方法はリサーチクエスチョンに対する答えを得るために適切なものを選択する必要がある。そのためにはリサーチクエスチョンが明確になっている必要がある。したがって、今回扱う内容は研究を行う上で最重要といっても過言ではない。以下、詳しくみていこう。

II 様々な疑問とその種類

日常生活や日々の臨床、業務で疑問に思うことは多々あるだろう。たとえば、日常生活では初めて聞いた英単語の意味や、カレーライス作り方、臨床現場であれば、「HbA1cの値は何を表しているか」「ロキソプロフェンナトリウム水和物錠の薬効、副作用はなにか」「乳がん患者がピアサポートグループに参加することで生活の質は向上するか」などである。こうした臨床上生じる疑問はクリニカルクエスチョン（Clinical Question；CQ）と呼ばれる（図1）。

このような疑問は、ある分野に関する基本的な知識、用語、概念等に関する疑問である背景の疑問（background question）とそれらの知識、概念の関連や組み合わせることによって生じる前景的疑問（foreground question）に分けることができる<sup>1)2)</sup>。先の例では英単語の意味

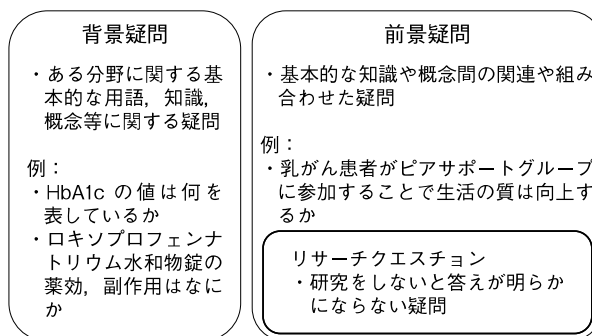


図1 クリニカルクエスチョンの分類と  
リサーチクエスチョンとの関係

や検査でわかること、薬の効果はどのようなものかは背景の疑問にあたり、乳がん患者がピアサポートグループに参加することで生活の質は向上するかといった問いは前景的質問にあたる。

幸いなことに現代では検索エンジンで検索をしたり、専門家や同僚に聞いたり、書籍で調べたりすれば上記のような疑問の大半は答えを見つけることができる。特に、検索エンジンやデータベースを使用すれば答えを瞬時に見つけることができる。一方で調べてもすぐに答えが見つからないような疑問が生じることもある。もちろん、探し方が適切でないために答えが見つからないこともあるが、適切な探し方をした上でもなお答えが見つからない疑問はリサーチクエスチョンの候補となるものである。

仮説はクリニカルクエスチョン、リサーチクエスチョンに対する答えを予想したものである。予想と言っても当てずっぽうな予想や、こういう結果だったらいいなという願望を示すものではない。仮説とはそれまでに明らかになっている事実や基礎研究の結果、他の類似する研究の結果から予想される結果を述べるものである。研究を始める前に妥当な仮説をたてられるほど

\* 聖路加国際大学大学院看護学研究科助教